

What's on, Kyodokodo

2010.12.24
No.38



いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

CONTENTS

共同行動からのお知らせ

- ポスター発表された病院の活動報告をHPでご紹介します
- 標準化病院死亡比(HSMR)の算出について
- 支援セミナーを準備中

フォーラム・セミナー等のご案内

医療安全全国フォーラムが開催されました

- ポスター発表の選考と投票のご報告
- 目標別活動発表・質疑セッションのご報告
- インターネット中継のご報告

フォーラム・セミナー等のご報告

- 平成22年度医療安全管理シンポジウム(東部地区)が開催されました

- 成功事例・参考事例を募集しています
→<http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- 質問・提案をお寄せください→advice@ppscamp.net
- 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします
→<http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
お問い合わせは toHSMR@ppscamp.net
- 参加登録病院用のバナーができました！
→[パートナーズ専用ページ/トップページ](#)
- 参加登録方法に関するQ&A→<http://kyodokodo.jp/faq.html>
参加登録事項変更等に関するQ&A
→[パートナーズ専用ページ/Q&A](#)
- キャンペーンポスターをご利用ください
完成版→http://kyodokodo.jp/shiryoku_koho.html
基本デザイン→[パートナーズ専用ページ/メニュー](#)



2010年も残りわずかとなりました。1年間ありがとうございました。
皆さまのご活躍のおかげで、共同行動の輪がさらに広がっています。

来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

よいお年をお迎えください。



共同行動からのお知らせ

11月の医療安全全国フォーラムでポスター発表をいただいた病院の活動報告をホームページでご紹介いたします

フォーラムでは貴重なご発表とご討議をありがとうございました。病院の発表内容をご覧になりたいとの希望が多数寄せられていますことから、発表病院にお願いしご承諾いただけるものについて1月から順次共同行動ホームページでご紹介いたします。乞うご期待。

標準化病院死亡比(HSMR)の算出について

先にお知らせしましたように、共同行動参加登録病院(HSMRモニター病院)の標準化病院死亡比が低下傾向を示していることがわかりました。その後の推移を確認するため、HSMRモニター病院におかれましては、2010年12月までの未送付データを1月末までにご送付いただきますようご案内申し上げます。

なお、HSMRモニター病院に未登録の施設にもご参加いただけるよう英国と交渉中です。ウェブマガジン次号でご案内いたしますのでぜひご覧ください。

支援セミナーを準備中－決まり次第ホームページでご案内いたします

②2011年の2～4月をめどに、支援セミナーの開催を準備中です。

検討中のもの：「安全な手術－WHO指針の実践」「肺塞栓防止のための予防的抗凝固療法の使用方法和安全管理」「持参薬の安全管理」「改善の進め方」など。

②2011年7月24日(日)に京都で国際血栓止血学会が開催されるのに合わせて、肺塞栓防止に関するセミナーとシンポジウムの開催を計画しています。英国の肺塞栓防止キャンペーンの代表も参加の予定です。

フォーラム・セミナー等のご案内

8目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

NEW! 第8回近畿臨床血栓性疾患研究会(目標2に関連)

日時：2011年2月5日(土) 14:00～16:30

会場：堺市産業振興センター

共催：近畿臨床血栓性疾患研究会／エーザイ株式会社

後援：医療安全全国共同行動

*詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/110205.pdf>

沖縄県医師会医療安全講演会(仮題)

日時：2011年2月27日(日)

会場：沖縄県医師会館(沖縄県南風原町)

主催：沖縄県医師会

*詳細は 追ってお知らせいたします。

弾性ストッキング・コンダクター講習会(目標2に関連)

〈大阪地区〉

日時：2011年3月12日(土) 12:45～17:00

会場：薬業年金会館 会議室301号、401号、402号

主催：日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

*詳細は <http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

医療安全全国フォーラムが開催されました

11月26・27日に開催された医療安全全国フォーラムの続報をお届けします

全国フォーラムホームページ(<http://forum2010.ppsqsh.net/>)では、講師の先生方のご厚意により、当日の講演スライドや発表資料を随時アップしております。

現在次のものが掲載されていますので、ぜひご覧ください。

NEW! ●表彰病院の発表内容紹介スライド、発表要旨

NEW! ●メッセージ「医療安全全国共同行動に期待する」 江原幸一

NEW! ●挨拶／日本医師会、日本看護協会

●議長報告「共同行動のこれまでの総括と第2期共同行動の提案」(スライド)

●セミナーセッションA～Eの資料

*全国フォーラムホームページの「26日ワークショップ」のプログラム「セミナーセッションA～E」からダウンロードできます

●李啓充氏の特別講演「患者安全の昨日・今日・明日ー非難から改善へ」(スライド)

●目標別活動発表の演目一覧と抄録集

追って、ほかのプログラムについても順次アップしてまいります。

ポスター発表の選考と投票のご報告

2010年11月の医療安全全国フォーラムに寄せられたポスター発表は、8行動目標全域にわたって84ありました。

すべての発表が、共同行動の取り組みである医療改善、事故防止活動への道筋を示すものとなり、共同行動の到達状況を表していたといえます。このことから、共同行動の取り組みが大きく進展してきていることを確信しました。ポスター発表の会場を狭いと思わせるほどの多くの参加者があり、熱気がみなぎっていました。

そうした発表の中から、優秀賞の選考と、特別賞の投票を行いました。

優秀賞の選考については、選考基準のポイントとして、①他施設にとって参考となるものであること、②よい結果が表れていることの2項目を挙げました。選考方法は、各目標のポスター発表時の座長による①と②の選考基準での3段階評価による合計点数(満点6点)と、横断的選考チーム(中立的な立場の選考委員)5名の各人が同様の方法で評価した合計点数をもとに合議で決定した点数(満点6点)の両者の合計点数を評価としました。12点満点で10点以上のポスター13を優秀賞候補とし、さらにその中から横断的選考チームで検討した結果、優秀賞として京都市立病院の「行動目標1. 危険薬の誤投与防止から一当院における取り組みの経緯と活動状況について」を選考し、表彰することとしました。

選考の理由は、目標1として共同行動が提案している内容の取り組みを数多く実践し、院内でチームとしての取り組みの評価データを出しながら推進してきたことでプロセスが明瞭になり、よい結果につながっていることです。

なお、他の優秀候補のポスターも優劣つけがたいものであったことも事実です。

特別賞は、フォーラムの参加者による1名1枚の投票用紙で投票され、もっとも得票数の多かったポスターです。これは、市立豊中病院による目標8の「患者参加を求める医療安全推進週間の取り組み」が選ばれました。毎年推進週間を取り組む中で、院長を先頭に病院職員が一丸となって病院玄関で患者参加の内容を呼び掛けたということへの共感を呼んだのだと思います。

病院毎の規模や性格、制約条件は様々です。その病院



参加者による投票

にとっては容易であっても他の病院にとっては困難な取り組みもあります。共同行動は、理想とする到達点を一律に求めているわけではありません。その病院が組織的な取り組みで行動目標をガイドにして医療改善を推進しているプロセスを重視しています。今回のポスター発表は、まさしくそのことを示していました。

文責 杉山良子(2010.11全国フォーラム目標別ポスターセッション担当、

■優秀活動賞受賞にあたって

京都市立病院 院長 内藤和世

このたびは医療安全全国共同行動優秀活動賞に選出いただき、大変名誉に思い、また、当院職員の2年間の取り組みが評価されたことをうれしく思います。

京都市立病院は、平成16年5月に気管切開チューブにかかる重大事故を経験しました。それをきっかけに、医療安全の組織的取り組みを、職員一丸となって進めてきました。医療安全管理委員会、医療安全推進委員会を軸に、医療評価小委員会、問題症例検討小委員会、事例検討小委員会を機能させてきました。さらに、医療安全にとどまらず、医療の質向上の取り組みとして様々な臨床指標を設定し、医療の質推進委員会で評価を進めてきました。

第1期全国共同行動では、8つの行動目標に加えて、当院独自の取り組みとして、患者個人情報保護対策を加えました。全部署の協働による実践、毎月の評価により、常にPDCAサイクルが働くように心がけてきました。

今回の受賞におごることなく、今後も医療安全・医療の質の向上に努力していきたいと考えています。

■特別賞受賞にあたって

市立豊中病院 病院長 島野高志

このたびは当院の活動報告に対して、特別賞を頂きましたこと、私をはじめ職員一同喜びを噛みしめております。

当院は、地域の中核病院として、市民の皆様とともに「安全で安心な医療」を考えていきたいと決意し、2005年より医療安全管理担当者、通称チームSMAP(safety management active practitioner)を中心に組み立ててまいりました。特に、医療安全推進週間の行動においては「医療者と患者さんは大切な命を守るパートナー」をテーマに、「わかるまで、聞こう、話そう、伝えよう」とアピールしながら、患者さんから名前を言うてもらおうこと、一緒に指さし確認することをお願いすると同時に、職員が一斉に「ゼロ災でいこう ヨシ!」と唱和する日といたしました。

今回の受賞は、今後の活動に英気をもたらしました。さらに、職員一丸となって市民の皆様とともに安全な医療を追求してまいりたいと思っております。ありがとうございました。

目標別活動発表・質疑セッションのご報告

■行動目標7【事例要因分析から改善へ】 発表7題

行動目標7での今回の活動報告は7事例であった。身近な問題点の解決から病院全体での組織的改善の取り組み事例が報告された。これまでは、どちらかというと不具合事象の対応処置に留まる報告が多かったように思えるが、今回の報告では、医療活動における『プロセス(手順・行動)』の改善や、院内の『しくみ』や『制度』の改善といった複数の部門が関与した横断型活動や、病院全体を巻き込んだ取り組み事例を見ることができた。

部門横断型取り組みの成功事例からは、病院幹部の活動への積極的関与と改善活動リーダーの強烈な牽引力があったことを感じた。院内での目的共有がきちんと行っており、目的達成に向けての活動全体がスムーズに動いているように思えた。

一方で、成果物についての標準化と水平展開は、未だ十分とは思えない状況にある。今後も効果的に活動を展開するためにも、新しく作った『プロセス』や『しくみ』についての院内での取り極めは明確にしておくべきであろう。

文責 井上則雄(目標7支援チーム/株式会社竹中工務店 品質管理部)

■行動目標8 [事例要因分析から改善へ] 発表14題

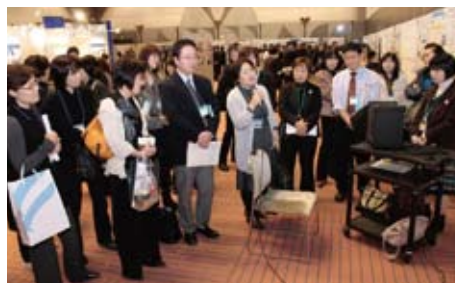
行動目標8は、患者と医療者の協同によるフルネーム確認「安全は名前から」をテーマとしたA(座長 渡邊和子)と、それ以外をテーマとしたB(座長 山口直比古)の2グループに分かれて要旨発表と質疑をしていただいた。

Aでは9病院からの発表があり、様々な工夫を凝らし患者誤認防止に努めている発表が多くあった。発表者の病院以外でこのテーマに取り組んでいる病院も多く、フロアと発表者との活発な意見交換が行われた。患者・家族が抵抗なく協力してくれるようになってきているが、職員へ徹底するための教育をどうするかが共通の課題となった。

Bでは、患者図書室の実践例、転倒防止のための履き物、医療安全推進週間の実施、地域との連携、服薬チェックシートの実践例について報告された。ポスター前での個別の質疑のみではなく、ポスター発表後の全体討論でも質問が出るなど、短時間の中で充実した内容となった。

また、院内患者図書室の意義と8病院の図書室の事例を紹介するポスター5枚(日本看護協会提供)を掲示した。

文責 山内桂子(目標8支援チーム/医療の質・安全学会パートナーシッププログラム)



インターネット中継のご報告

5月に東京で開催された2周年記念フォーラムに引き続き、11月27日に幕張メッセで開催された全国フォーラムのシンポジウムをインターネットで生中継しました。9時から約3時間、ユーストリームとニコニコ動画で配信し、アクセス数は、ユーストリームが約200、ニコニコ動画が約300で、どの時間帯も70～90人の方が視聴してくださいました。5月の中継は土曜日の午後ということもあって、ニコニコ動画で偶然視たという方が多かったようですが、今回は退出数が5月より少なく、長時間の視聴者数が増えました。視聴者は男性の方が多く、全体の約70%でした。

ニコニコ動画でお気に入り登録している方は、現在135名です。なかなか会場までは足を運べないという方にも気軽にインターネットで視聴していただける機会を、今後も設けていくことができればと思っております。

ご意見・ご要望は共同行動支援事務局までお寄せください。

shienjimu@kyodokodo.jp

文責 山崎美智子(金沢医科大学病院)



フォーラム・セミナー等のご報告

平成22年度医療安全管理シンポジウム(東部地区)が開催されました

参加者の高い評価と期待を受けて今後の活動継続へ

平成22年11月16日、「平成22年度東部地区医療安全シンポジウム」が、社団法人静岡県病院協

会医療事故防止部会により、沼津市魚町のサンフロントビル9階ミーティングルームにおいて開催されました。参加者は、静岡県東部地区を中心に22施設の142名で、各病院の院長をはじめ幅広い医療従事者の参加となりました。



テーマは、県病院協会医療事故防止部会が静岡県東部、中部、西部各地区統一で「患者・市民の医療参加」を取り上げました。これは、昨年に行われた医療安全全国共同行動静岡フォーラムの中で取り上げた「医療安全は、医療現場だけでなく、患者市民にも参加をしていただき、患者・市民と医療者のパートナーシップを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる」という医療安全全国共同行動が提唱する8つの行動目標の8番目の目標です。

シンポジウムは、静岡県医療センター院長で県病院協会参与の小嶋俊一先生の司会により、初めに基調講演として、県立静岡がんセンターRM/QC室非常勤薬剤師で、医療安全全国共同行動「目標8：患者・市民の医療参加」支援チームの一員として活躍されております飯島久子先生より「患者・市民の医療参加を進めるために—医療安全全国共同行動の取り組みを中心に—」という講演をいただきました。医療安全全国共同行動の取り組み参考例、参加病院による取り組みとして、名前確認、院内患者図書室、転倒転落の患者用啓発教材DVD等のお話がありました。

次に会員病院による事例取り組み発表に移り、初めに沼津市立病院看護部の杉山友輝氏により「ACL再建術オールインワンパスを利用した転倒転落防止への取り組み」、続いて富士宮市立病院看護部の寺尾智恵子氏による「まずあなたのお名前を名乗ってください」—その実態調査、最後に社団法人有隣厚生会富士小山病院診療放射線技師の大和充普氏より「当病院における患者確認の現状と課題」の発表がありました。各病院の患者確認について、独創的な発想で取り組んでいる事例や、患者、職員の意識付けへの苦労が報告されました。講演・発表者をパネリストとした全体討議では、会場の参加者を含め、時間ぎりぎりまで活発な質問や意見交換が行われ、盛況のうちに終了となりました。

終了後のアンケート結果によると、内容の理解については「よく理解できた・おおむね理解できた」が68%、今後業務に携わるうえで有意義であったかどうかについては「非常に有意義である・有意義である」が68%、テーマ内容の適正性については「適切であったので継続して欲しい」が67%と、非常に良い評価と大いに期待される結果となりました。今後も、シンポジウムがより意義のあるものになるよう、ご支援をお願いします。

(報告者：社団法人有隣厚生会 富士小山病院院長 細井靖夫)

*これまでのフォーラム・セミナー等の報告は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → 「[フォーラム・セミナーの報告](#)」からご覧ください。

フォーラム・セミナー等のスケジュール

- 2011年2月5日(土) ▶ 第8回近畿臨床血栓性疾患研究会
- 2月27日(日) ▶ 沖縄県医師会医療安全講演会(仮題)
- 3月12日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター講習会(大阪地区)

★次号は1月5日(水)に配信予定です。院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>